

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目

数学(理系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

今年度も、例年通り 120 分 5 題の出題であった。どの大問も、2~4 個の小問に分かれて出題されている。ただし、例年と出題分野が異なるため、取り組みにくく感じた受験生も多かったであろう。最後まで見通せる問題が少なく、例年に比べ難化している。

〈特記事項・トピックス〉

昨年出題がなかった確率が復活した。

複素数が 2 題出題されたが、3. は複素数がメインではない。5. の複素数平面は前期では 2018 年以来的の出題。

証明問題は 3. の(2), (3), 4. の(3), 5. の(1)と多く、今年は論証力で差がついた。

数列、ベクトルは出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

例年、「大問を完答する」ことよりも、「小問を 1 つずつ解き切る」ことが重要であり、今年はその特徴が色濃く表れている。どの小問を取りこぼすか、によって合格が分かれることが多い出題である。数学Ⅲの微分積分を中心に、標準的な問題を演習し、自力で問題を解き切れるような「手が動く」勉強を心がけてほしい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1.	記述	Ⅱ, A	多項式の割り算, 確率	さいころの出た目によって多項式の係数を決定し、割り算の余りについての確率の問題。(3)の結果を(4)に活用することに気付かないと、(4)を単独で解き切るのは困難である。	やや難
2.	記述	Ⅲ	微分法, 積分法	曲線の概形をかき、 x 軸より上側の部分の面積を求める問題。数学Ⅲの内容としては標準問題であるが、計算は容易ではない。	標準
3.	記述	Ⅱ, A	複素数, 整数	複素数の設定ではあるが、実質は整数の問題。(1)は「すべて挙げよ」となっているが、他にないことを示すのは難しかったのではないかと。(1), (2), (3)の内容は無関係であった。	やや難
4.	記述	Ⅲ	積分法	定積分で表された関数の問題。最初に x を積分の外にくくり出すことができれば、難しくはない問題。(3)は、必要性と十分性に分けると、証明しやすい。	標準
5.	記述	C, Ⅲ	複素数平面, 微分法	複素数平面上での円の存在に関する問題。(1)は r が残ったまま答えとしてしまった受験生は多いと思われる。(2)は先に r の範囲を求めてから r で微分するとよい。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。